モノレール砂川七番駅に駐輪場設置を

土地の所有者と協議を進めている

佐藤　寿宏（たちかわ自民党・安進会）

問　砂川七番駅周辺は空き地が少なく、駐輪場の設置が非常に困難な状況が続いており、そのため、同駅利用者の利便性と点字ブロック上への違法駐輪が問題となっています。駅隣接地の契約が更新されないと聞き、土地所有者の方と話した上で、情報を市に提供してきました。現在の交渉状況を伺います。また、その土地には建物がありますが、待機児童対策として、保育園や学童保育所などの設置をあわせて検討していただきたい。

答　砂川七番駅隣接地の地権者から、現在の賃借人との契約が今年10月で終了するとのお話をいただいたので、改めて本市の意向を伝え、現在契約に向けた具体的な協議を進めています。協議が整い次第、予算措置や条例改正などの手続きとあわせ、議会へ報告します。また、建物については、駅のある柏小学校区、隣接する幸小校区はともに、学童保育所の待機児童がいる地域のため、学童保育所の整備に向け検討を進めます。

貧困や暴力から逃れられる子どもの居場所を

子どもの気持ちに寄り添って対応していく

谷山　きょう子（立川・生活者ネットワーク）

問　2分の1成人式が小学校4年生で行われています。この2分の1成人式という教材は、理想的な家庭がベースとなっているように感じますが、親への感謝ができない環境の子どもたちにとってはどうなのでしょうか。学校や社会は、貧困や暴力などのリスクにさらされている子どもたちが苦しい状況から逃げることができるよう、心に寄り添ってもらえるような居場所を作っていくべきだと考えますが、見解を伺います。

答　2分の1成人式は、児童が家庭、家族への感謝の気持ちを持つことが目的の一つではありますが、リスク層にいる児童が自分の境遇を悲観したりしないよう配慮も必要であると考えています。学校は、子どもにとって安心できる場でなければならず、一番身近にいる担任が子どもの気持ちを受け止める存在になる、学年や学校がチームとなって子どもの気持ちに正対し、寄り添い、温かく対応する環境を今後とも整えていきます。

夢をのせ、子どもたちの心に残るオリンピック・パラリンピックを

子どもたちの心に残る財産となるよう取り組む

中山　ひと美（たちかわ自民党・安進会）

問　3年後の東京オリンピック・パラリンピックでは、子どもたちに夢を届けるためにも、ぜひ参加国の事前トレーニングキャンプを誘致し、子どもたちとの交流事業などの国際交流や地域振興などを促進していただきたい。それによって、本市を世界に発信することにもなると考えます。誘致実現には、民間や市民も含めたオール立川で取り組むことが重要ですが見解を伺います。また、聖火リレーは本市に来るのでしょうか。

答　事前キャンプの一番の目的は、選手との交流を通じて子どもたちの心に大きな財産を生み出すことだと考えます。現在、国体で競技として実施したバスケットボールなどが公式事前キャンプガイドに登録されており、各国の競技団体に配布されています。今後も都や東京女子体育大学など関係者と連携し誘致に取り組みます。聖火リレーは、都内すべての区市町村をまわる予定で、来春以降ルートや走者などの選定に入ると聞いています。

胃がん検診に内視鏡検査導入を

立川市医師会と協議中

山本　みちよ（公明党）

問　平成28年2月に国の胃がん検診の指針が改正され、50歳以上では胃の内視鏡検査なども選択可能となりました。内視鏡での検診は精度が高く、先行自治体では受診率が向上していることから、本市も胃がん検診に内視鏡検査を導入してはどうでしょうか。胃がんリスク検査として導入したピロリ菌検査の対象年齢と重なりますが、ピロリ菌検査の対象年齢を前倒しするなど、その拡充もしっかり視野に入れ、検討していただきたい。

答　胃がん検診における内視鏡検査の導入について、本年度から立川市医師会と協議を開始しました。現在、検診の精度や安全体制の管理などについて、医師会内部で検討が行われています。引き続き、継続的に協議を行い、課題解決に取り組んでいきます。また、胃がんリスク検査のピロリ菌検査の対象年齢については、検査のあり方も含め、胃がん検診の内視鏡検査導入とあわせて、立川市医師会のご意見を伺いながら検討していきます。

砂川七番駅付近の駐輪の様子

よく渋滞する青梅線踏切

上砂川小学校の「二分の一成人式」

「暮らしの保健室」を次期計画の中に

効果や課題などについて把握する

稲橋　ゆみ子（立川・生活者ネットワーク）

問　医療と介護の連携を身近な暮らしの中で実感することが、在宅で暮らし続ける原動力となってきています。暮らし続ける保健室とは、困ったときに専門性のある助言やつなぎの支援があり、時には居場所としてほっとできる拠点であり、気軽な相談場所として注目されています。地域包括支援センターや医療・介護の事業者とも連携できる制度として、暮らしの保健室を次期介護保険事業計画に盛り込み進めるべきだと考えますが、見解を。

答　暮らしの保健室の必要性について、身近な地域で医療に関連する相談に応じる場所があることは、地域包括ケアの概念とも合致すると考えています。本市においても、看護師と薬剤師の方が試行的に、高齢化の進んでいる団地の集会室などで暮らしの相談会という相談窓口を開設して、薬の相談や血圧測定などを行っています。今後、このような取り組みを行っている方と意見交換をして、効果や課題などについても把握していきたい。

青梅線の高架化や立体交差化を

JRとの協議を含め早期事業化を要請する

松本　まき（民進党・市民フォーラム）

問　富士見町の立3・1・34号と交差する青梅線の踏切が、電車のトラブルで開かずの踏切となると、500メートルにも及ぶ渋滞が発生することもあります。この付近には、病院があり、災害時には物資を運ぶ緊急輸送道路でもあり、市民の生命と財産がかかっています。本市は、青梅線高架化や立体交差化をどう考えているのでしょうか。昭島市のように、道路が線路の下をくぐるアンダーパス方式にすることはできないのでしょうか。

答　踏切の解消には、鉄道立体交差と、道路の単独立体交差があります。JR青梅線立川・東中神駅付近は、鉄道立体化の検討区間となっていること、また、立3・1・34号中央南北線の整備事業と整合を図る必要もあり、技術的課題が多くあります。アンダーパス方式では、道路交通は円滑化されるが、市街地が分断されるということもあり、引き続き都に対し鉄道との交差手法の検討、JRとの協議などを含め早期事業化を要請します。

議員研修会を開催

8月2日、有限責任監査法人トーマツの宗和暢之氏を講師に、「公会計制度について」の研修会を実施しました。制度のしくみや議会としてのチェックポイントなどを講義いただき、議員からは市財政を長期的な視点で分析するポイントなどがよくわかったなどの意見が出ました。

監査委員の活動

大石監査委員（議会選出）

【活動の記録】

8月3日　平成28年度財政健全化審査説明聴取

8月22日　平成28年度決算審査結果市長へ講評

8月24日・25日　平成29年度全国都市監査委員会総会及び研修会

など

（今後の予定）

10月27日　平成29年度第2回定期監査に伴う備品検査

11月17日　東京都市監査委員会委員研修

11月27日　平成29年度第2回定期監査説明聴取

など